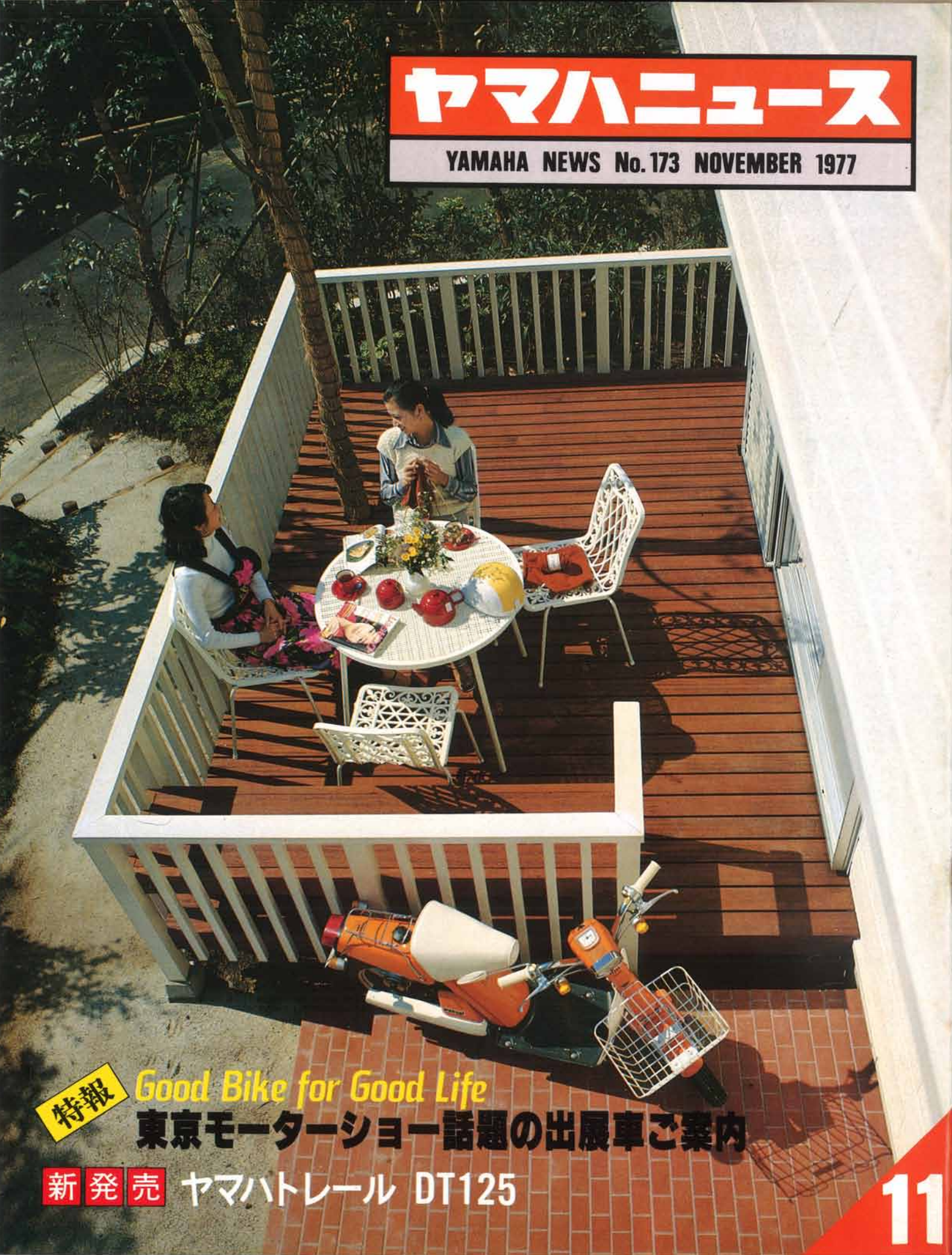


ヤマハニュース

YAMAHA NEWS No.173 NOVEMBER 1977



特報

Good Bike for Good Life

東京モーターショー話題の出展車ご案内

新発売

ヤマハトール DT125

11

私とバイク



「オートバイ論」という卒業論文を書いている学生がこんなことを言っていた。

「あのころ僕は、車庫のバイクに毛布を毎日かけてましたよ。先生」

この男、高校生のころはまさにバイク・マニアだったらしい。大学4年の現在でももちろん乗っているが、高校のころと比べるとその頻度は落ちていくとのことだ。そうして、すこし先を急いだ書き方をすると、だいたいこのころ、この種のマニアの書いた論文は出来がよろしいということになっている。

これまでの経験では、「ペット論」を書いたもと学生がやはりそうだった。テーマを決めるまでに時間がかかったけれども、自称イヌ・キチの彼がやると「ペット論」とめぐり合っただけの熱心なこと。これは、私のほうがびっくりするくらいだった。

さて、そこでもう一度先程の「オートバイ論」にもどると、彼とバイクとの関係は、まさしく心理学で言う「自我関係」である。つまり、このころの深いところでバイクが結びついてしまっているという、ぬきさしならぬ心理的状态だ。

じつさいの話、私はあらゆる商品をも、「自我商品」と「非自我商品」の2つに大別できるのではないかとこの仮説をかねてから持っている。

つまり、自我関係が成立しやすい商品とそうでない商品ということだが、前者の特性のひとつに「愛」という字がくっつくという事実のあることが見逃がせない。愛車、愛機等々、愛の字がその上にある商品は、だいたい自我商品だ。

だから、バイクは、若ものたちにとって最大の自我商品のひとつであることは言うまでもない、ということになる。

しかし、これは私たち中年世代、とくに昭和ヒトケタの典型的人間と自称している私には、若干気に入らないところでもある。

「きみ、そのバイク、オヤジに買ってもらったんだろ?」

「ええ、でもガス代やなんかはアルバイトで補いましたよ」

——先程の学生と私とのやりとりだが、「コノヤロウ、ウラヤマシガラスゼ」。私は内心おだやかでなくなってくる。

私たちが高校生のころはもちろんバイクなどというものは無かったし、第一クルマに乗るなどということは考えてもみなかった。

しかし、これは、やはり時代の変化というものだろう。だが、幸せなことに私たち中年にも乗れるバイクがいろいろと現われてきている。中年の自我商品としてのバイク……。いや、中年には中年の魅力を発揮できるバイクと、その乗りこなす方があるはずだ。私が以前、ヤマハ・ポビイの広告に登場したのも、実はこのようなところ、意気からなのであった。

石川弘義（成城大学教授）

バイクのもつさわやかな走りは、その便利さ、経済性などから、いまや多くの人々の生活の中に定着し、ゆたかな暮らしの幅を広げて好評です。とくに、「パッソル」をはじめとする一連の50ccバイクは、これまでバイクを無縁なものとしていた方々の心もとらえ、バイクの社会的な地位を高めました。「グッドバイク・フォー・グッドライフ」の時代がいま大きく、そして力づく前進をはじめたのです。一家に一台から一人一台へ、バイクの世界は新しい広がりをみせているのです。



Good Bike for Good Life





4台のヤマハバイクを前に家族全員勢揃い

一家に4台、バイク家族

埼玉県入間市 佐々木茂さんご一家

「文明の利器は、最初はだれの目にもコワイものとして映るものなんです。しかし、いつまでも恐がっていたのでは世の中の進歩や生活の発展は望めない。大切なことは、恐がって遠ざけることなく、そのものを正しく理解し、受けとめる心をもつということなんです。このことは、何についてもいえることでしょうが、私がバイクを楽しみ、そして妻や息子にもバイクを勧めている理由のひとつには、こうしたことを分かってもらいたい気持ちがあったからです。

もちろん、第一の魅力は、家族そろってバイクライフを楽しみたい——ということなのですが……」

走らって、本当にさわやかだ

埼玉県入間市にお住いの佐々木さんご一家は、免許年令3人に対して4台のバイクを常用するというバイク家族です。その内訳はRD400、RD125、メイト、チャビイとバラエティに富んでいます。

RD400のオーナーは、もちろんご主人の茂さん。今年の2月に購入されたもので、もっぱら休日のツーリング用として使って8000kmを安全走行しています。とはいえ、ご主人は昔からバイクに乗っていたというキヤリヤの持主ではありません。バイクとの出会いは、2年半前に現在のところに転居されたからのことです。まず、その辺のところからお話をうかがってみましょう。

「入間台分譲地に移ってまず感じたことは交通の便が非常にわるいということ。当家をみても、最寄りの仏子駅までは歩いてゆうに20分はかかり、この間の交通機関は何もないという状態です。」

朝夕の通勤に、山坂をふくむ20分の道のりは、長年、都内に住み慣れた人間にとってはかなりキツイ負担をとまなうもの。そこで、駅前の宮岡自転車商会（宮岡仙吉社長）さんにご相談して原付免許を取得、家から駅までの足としてメイトを購入したんです。

通勤の足としてメイトに乗るご主人は、さらにその翌年には中型限定免許をも取得。そして、ここで新たに佐々木家にとって2台目のRD125を購入しています。

「いやあ、実はメイトに乗っているうちにバイクの走りがやみつきになってしまいましたね。もっと本格的なバイクに乗りたくなくなってしまったんです。」

それでも、しばらくの間はメイトで近所を走り回っていたのですが、たまたまRD125の新発売が耳に入り、それからというものは、もうRD125でツーリングをしている夢ばかり。ちょっと子供みたいですが、きっと。午年。だからさわやかな走りが好きなんです。う。」





恵美子さんがバイクに乗るようになってからは、奥さま族のバイク仲間も増えるいっぽうとか



「息子が行きたくないのでは——」とややひかえ目だが、時には父子2人でツーリングも

奥様の免許教室の受講手続きも

RD125を手にして以来というものの、ご主人のツーリング熱はますます上昇するばかり。そして、ついには奥さま・恵美子さんにまで飛び火することに――。

「飛び火というよりは、うつされたといったほうが正しいでしょう」とは奥さまの言葉ですが、ここでのご主人の奥さまに対するアプローチは、なかば強引に行なわれたものです。

「お父さんはメイト、子供たちは自転車を持っていきますが、私だけが自転車にも乗れなかったので駅まではもっぱら歩き一本。それがお父さんには気がかりだったのでしょう。

私には何の相談もなしに、原付免許教室の受講手続きを済ませてしまったときは、ようやく私も意を決して勉強を始めたんです」

昨年6月に原付免許を取得した奥さまが選んだバイクは、オートマチックのチャビイ。乗り方指導は、もちろんご主人です。

「最初のうちは、よく『腰が曲ってる！』とか『腕が伸びてない！』などと怒られたものですが、それまでは自転車にも乗れなかったんですから仕方がないと居直ったり。でも、今はだいぶカッコよく走れるんですよ」

RD400には触らせてもくれない

茂さん・恵美子さんご夫婦には、お子さんが3人。上から、茂美クン(16)、かおるさん(15)、勇人クン(12)の順です。

そのうち、バイクに乗れる資格を持っているのは茂美クンただ一人ですが、茂美クンは本年2月に原付免許を、そして8月の夏休みにはお父さんと同じ中型限定にめでたく合格しています。

ご主人が4台目のバイクとしてRD400を購入したキツカケも、そもそもは茂美クンが中型免許を取得したことにあるのです。



「佐々木さん一家の愛車の手入れは超一流」と宮岡社長も太鼓判を押すほど



「来年はかおるが免許を受ける番だな」お父さんの期待は高まるばかり

「中型免許を取ったとなれば、誰だって原付で我慢できるはずがありません。それこそ400ccぐらいのバイクをコントロールしたいと思うのが、若者たちの偽らざる気持でしょう。」

ですから、茂美にはまずRD125を合格のお祝いとして譲ることに。私はもちろん、もっとダイナミックなツーリングがしたいと思っていたのでRD400を。

心配はないか、ですって？。その点は、うちの息子のほうが僕より落ち着いているくらいだから」

「お父さんなんかより全然常識は豊かなんですよ」とはお母さん。

現在、茂美くんはRD125に乗って通学中といっても、高校は90cc以下のみ通学許可という限定なので、実際に乗る距離といったら家から駅までの往復4kmほど。クラスメートの間では早くも、バイクに対して理解を示すご両親の噂は広まるばかりで、それはもう、うらやましがられることしきりです。

「友達なんかはよく、『お前んとこの親父さんはバイク好きだから、すぐ乗せてくれていいな！』などと言いますね。」

でも、うちの親父だって僕がバイクに乗ることに対しては、無条件で許しているわけではないんです。今回だって、5つの誓約の下に許可ですから……」

その誓約というのは、

○毎朝、無事故を祈る

○安全速度を守る

○一時停止は確実に

○曲り角は徐行する

それともうひとつ、

○人に貸さない、人から借りない

「だからRD400には、それこそ触らせてもくれないんです」



茂美くんの勉強机の前にはお父さんとの「誓いの書」が……

思いは一つ、家族そろってツーリング

「汚しておくですぐ怒られる」（恵美子さん、茂美くん）とあってか、佐々木さん一家のバイクはいずれ劣らぬ輝きよう。自動車用の車庫には現在、仲良く4台のバイクと自転車が並んでいます。

来年は、いよいよかおるさんが16歳で、原付免許試験にチャレンジ。そして、さらに4年後には、「僕のバイクはGR50さ！」と早くも子約の勇人くんが――。

ご主人の期待はますますふくらむいっぽうですが、最後に佐々木家のバイクライフの夢をこんなかたちで語ってくれたのです。

「ここへ引越して2年半の間に、なんとバイクは4台も。ちよつと信じられない感じがしないでもありませんが、バイクによって生活がより充実したことは確かです。物理的な充実というだけでなく、精神的な面でもね。私の期待は、実はここにあるんです。」

バイクライフを家族の共通項に。そして、バイクを通してさらにスケールの大きいコミュニケーションをしよう。ですから、私の「夢」はそれこそ家族そろってのツーリングにあるんです」

母娘でパッソル、バイクでニューライフ

神奈川県秦野市 甲谷嘉男さんご一家



お母さんのパッソルには家事の足として大きな荷カゴが。真理子さんのパッソルは駅まで往復4kmの通勤用。朝のお化粧時間もたっぷりどれ、お勤めを終わってからも帰りの時間にせかされないとバイクの効用を礼賛

つづいて、こちらは母娘でパッソルを愛用、ニューライフを楽しまれている例です。

神奈川県秦野市にお住いの甲谷嘉男さんのガレージには、ご主人専用の乗用車のほかにグリーンとオレンジの2台のパッソルが並んで納まっています。お母さんの綾子さんとお嬢さんの真理子さんのもので、すっかり甲谷家の一員となって活躍しているのです。

いまチャンスを選すると……

自習セットの勉強で1度で合格

甲谷家へ2台のパッソルが仲間入りしたキツカケも、新興住宅地にありがちな足の便のわるさからでした。

「とにかく、家から駅まで男の人が速足で歩いても20分はかかるでしょう。ですから、ちよつと出かけるといつてもそれは大変だね、今春、就職した真理子にしても時間ももつたいないとこぼしてばかりいて……」

ご近所の奥さま方のバイクに乗りなれた姿が目につきだしたのは、そんな頃です。

「お母さん、わたし、駅までパッソルで通うわ。あのバイクならお母さんにだって簡単に乗れそうよ、八千草さんだって乗っているんですもの。だから一緒に免許をとりましょうよ、お母さんの生活も変わるわよ」

このとき真理子さんの手には、杉本サイクル(杉本一郎社長)さんの原付免許教室おすすめのチラシがにぎられていたのです。

しかし、お母さんの綾子さんにとってそれは自分にかけられた言葉とは思えませんでしたが。というのも、八千草さんよりもっと年上だし、坂も多いし、バイクはよその人の乗りものとしか考えられなかつたからです。が、いとも簡単にいう真理子さんの言葉が、お母さんの心を触発。そういえば、ご近所の奥さま方もと身近かな例に気づかれ、ご自身おどろくほどにバイクに対する関心が高まってきたものです。

この長い坂道をなんねん歩いて登ったり、おりたりしたことが……お母さんの述懐です



バイクに乗りだすようになって、生活圏も広がり、お友だちも増えています

そして間もなく、甲谷家のラジオカセットからはヤマハ原付免許教室自習セットのテープの音が流れていたのです。

**お父さんも加わって2台で3役
いまではバイクのすすめ役です**

「案ずるより生むが易し、とはよくいったものです。乗り方も杉本サイクルさんの親切な指導で、自分でも信じられないくらいやさしく、上手に扱えるようになりました。バイクがこんなに便利で楽しいものなら、もつと前から乗っていればよかった、とほんとうにそう思います」

お母さんの綾子さんは、いまではまだバイクになじみのないご婦人方に、バイクのすすめ役になっていくらしいです。もちろん免許試験を一度で合格した体験談をそえて。

ご主人の嘉男さんは、奥さまの綾子さんがバイクに乗りだすことには、何をいまさらの抵抗感もあつたようですが、「もし、バイクに乗るなら、いましてチャンスがない。ここでバイクに乗らなければ、これからも毎日歩いて買物……」という強い決意に、最後には交通のルールについてもやさしく教えてくれたとか。そして、愛娘の真理子さんが駅についた電話を受けとったりすると、奥さまのバツソルを乗りだして、母娘ならず父娘でバツソルを駆って家に戻るといふこの頃です。

「お父さんとカップルで走るんで、恥ずかしくって……」とは真理子さんですが、どうやら甲谷家にはもう1台、バツソルが増えるような気配が濃厚です。家族3人、もつとも新しい話題、それはきょうもバツソルなのでした。

白いパツソル

で

ごんごちは

働く婦人の行動を広げる
ソラトバイク



働く女性の職場の一つ、訪問販売職にたずさわる女性の間で、バイクを有効に使用している例が増えています。訪問セールスといえは保険、化粧品、くすり、ミシン、飲料、食品、図書、各種教材……など、その職場は広く、年令、資格などにきびしい条件がなく、勤務時間も比較的自由で、報酬は能率給ということから、家庭婦人が主婦と兼業で働きに出ている例が少くありません。それだけに限られた時間をいかに生かすかが問題となり、手軽で、経済的で、機動性に富んだバイクが受け入れられているというわけです。

ここにご紹介するポラ化粧品太宰府営業所のみなさんもその一例。学問の神様・菅原道真公を祭った九州・太宰府天満宮のおひざもと太宰府町で活躍するポラ・セールスウーマンのみなさんは10名。このうち主婦兼業の5名のみなさんが白いパツソルを足に、そのスマートな走りぶりをセールスの話題に生かして活躍しています。

□
みなさんお気に入りの白いパッソルについて末岡みえ子所長は「白いパッソルはやさしさと清潔さをアピールして、ポーラ化粧品イメージにぴったりなんです。パッソルはこれからもどんどん伸びつづける商品だと思いますね」とのこと。女性を対象としたお仕事をしている人の、パッソルを見る鋭い感覚がうかがえました(写真左が末岡所長)

◇
最近では仕事や買物のほか、太宰府町近郊の美しい自然や史跡めぐりなどをして話題をゆたかに広げ、バイクのある生活を楽しんでいる



□
「コンビニへ行っても、みんなに見つめられて嬉しさとはずかしさが半々……」といったみなさん。私たちの仕事にとってこうしたステキな乗りもので、スマートに品物をお届けできるのは大きなメリットがある」とのこと



点検済みの通学バイク。その数208台。
1台1台が厳しいチェックをうけた

通学バイクの安全を守ろう
みことな連携プレイで安全点検サービスを実施





手際よくすめられる作業。その真剣なまなざしに、安全を守る固い決意がうかがえる。

作業展開の打合わせ。さあ、しっかりとやっぺいこう——スタッフのみなさん



「わたしのバイクはどうでした?」「うん。あなたに似てきれいで健康、でもブレーキの遊びが大きかったよ」。くだけた会話をはさんで生きたアドバイスが……

「安全」でお客さまと一体感を 折りから秋の交通安全運動期間

この件の発端は佐沼町にお店を構えて17年の実績をもつ遠藤輪業の遠藤俊次社長です。

「お店とお客さまのコミュニケーションをいかに保つか、これはわれわれ販売店にとって非常に大切なことです。とくに諸般の事情から考えて若いお客さまとの連帯感をつよめていかなければならない。その具体策の一つとして、「安全点検サービス」のプランをたててみたのですが、何百台とあるバイクを1軒の店でやるには手に負えないし、アピールする力もよわい。そこでグループを組んでやっぺいと考えまして、仲間のみなさんとも相談し、またヤマハ古川営業所の協力を得てようやく実施の運びとなったものです。折りしも「秋の交通安全運動」の時期でもあり、まさにグッドタイミングでした」

この遠藤社長の話を積極的にかつてたのは米谷町の行場モータース(行場純男社長)さん、米川町の米川モータース(佐々木孝芳社長)さん、南方町の後藤輪業(後藤勇社長)さんと本吉商店(本吉久社長)さん、そして豊里町の丸高輪業(高橋三郎社長)さん、いずれも登米郡50キロ四方を商圏とするみなさんです。この協力態勢が出来あがってからというものの、事はトントン拍子にすすみ、所轄の各警察交通課長や佐沼、上沼、米谷、登米、米山の登米郡5校の生活指導担当の先生方との話し合いもスムーズに終わりました。作

宮城県東部の穀倉地帯、北上川に沿った登米郡は、「笹綿」の米どころとして有名です。豊かに実った稲穂がさわやかな秋風にゆれる、のんびりとした田園風景。そんな中をバイクに乗って通学する高校生の姿は、すでにこの地域では見なれた風物詩でもあります。

この登米郡を商圏としている6店のヤマハ販売店さんが、「秋の交通安全運動」を前に、地元の高校にバイクで通学する男女高校生を対象とした「安全点検サービス」を実施、学校・警察関係の方々との称賛を浴びるとともに、若いお客さまと心のかよったコミュニケーションづくりに成功しています。

業の展開方法や受入れ態勢、安全指導のPRなど、総合的なプログラムが組立てられて、その第1回が9月12日、佐沼町の県立佐沼高校の通学用バイクを対象に行なわれました。

それぞれの立場で一致協力 バイク使用の環境づくりにも成果

作業の日程は各校1日ずつで、5日間で巡回しようというもの。対象校を商圏に受持つ販売店さんがその高校での主催店となり、ほかの5店さんが応援するという仕組みです。

最初の作業となった佐沼高の主催店は遠藤輪業さんです。佐沼高は男女共学の普通高校で、生徒数は1500名。このうち232人の生徒がバイクで通学しています。作業場は校庭の片隅に特設、この日は208台の通学バイクが安全点検をうけました。

学校からの通達によって、各バイクにはそれぞれ学年・クラス・氏名を記したチェックカードがつけられており、エンジン、車体関係からブレーキ、タイヤ、ランプ系統、駆動系、バッテリー液などの点検項目のチェック結果がこのカードに記入され、クラス毎に集計され生活指導の先生からクラス担任の先生へと回わされ、生徒さんに戻されます。

そして、この点検で不備が認められたものについては販売店さんにサービスを依頼し、修理完了の証明印を受けて再び担任の先生の手を経て生活指導担当の先生に戻されます。こうしたシステムにより、学校側としても通学バイクの安全管理が果されるというわけ

安全点検チェックはこんなところを重点的に実施した
 ④ハンドルまわり
 ⑥ブレーキ系統
 ⑦駆動系
 ⑧電装
 ⑨灯火関係
 ⑩タイヤなど足まわり
 ⑪エンジン始動関係
 ⑫バッテリー液、充電状態



生活指導担当の北沢教諭を中心に安全点検の結果報告をする遠藤さん(右)と行場さん(左)

これがチェックカード。多いものでは5~6カ所の要整備箇所があった



で、今回の企画の主旨もいかされます。高校生のバイク通学についてはいろいろな論議のあるところですが、こうした地道な安全普及活動が行なわれていることにも目をむけ、バイクをよりよく、安全に、楽しく活用していく環境づくりに励みたいものです。

安全の確立めざしての前進 出来れば運転も含めて定期開催

佐沼高校北沢生活指導担当教諭の話 「本校では10キロ以上の通学生徒に限り、バイクでの通学を認めています。これまでとくに事故もなく、安全が徹底されていますが、それは地元の警察当局とタイアップで行なってきた安全運転指導の成果といえます。しかし、全校をあげての安全点検というのは今回が初めての試みで、私どもとしてはその成果に大きな期待もっています。運転以前のバイクについての安全がこうした機会を通じてチェックされる意義は大きく、今後も定期的に実施していきたいと考えています。もう、チェーンが外れて遅刻しました、という生徒はいなくなるでしょう」

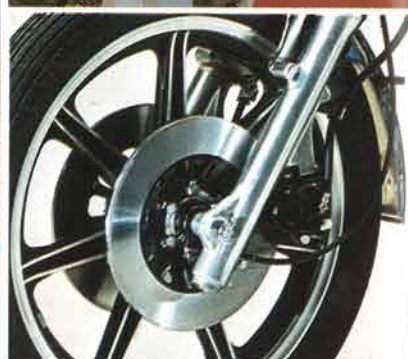
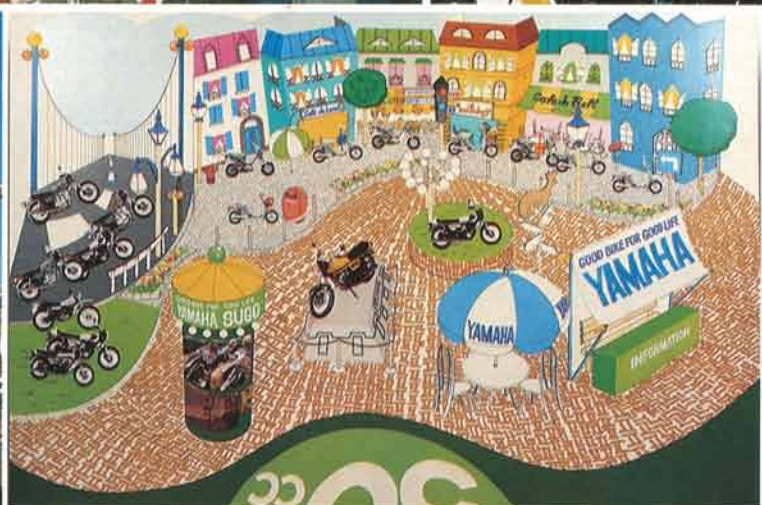
主催者・遠藤運輸業遠藤俊次社長の話 「高校生は大切なお店のお客さま。このお客さまの安全をいかに守るか、それをキーポイントにみなさま方の協力を得て今回の活動が行なわれたわけですが、みなさんにたいへん喜ばれて今までの疲れもふきとんだ感じです。チェックカードを整理してみると、高学年の生徒さんに使われているバイクのほうに要整備の項目が多いんです。一年生はバイクを買ったばかりですから、これは当然の結果かも知れませんが、乗り方の上達で整備面を軽視するようになったのでは問題です。これからは安全点検サービスにプラス・上手な乗り方、正しい乗り方といった二本建てでプログラムを設定してみたいですね。それにしても若い人たちとバイクを介していろいろとコミュニケーションが図れるのは、本当に楽しいことですし、商売のやりがいを感じさせます」

Good Bike for Good Life

特報

第22回東京モーターショー

[話題の出展車ご案内]



10月28日(金)から11月7日(月)まで、東京晴海の国際貿易センターにおいて恒例の東京モーターショーが開かれています。2年ぶりの今回のショーには、内外から2輪、4輪あわせて738台が展示され、100万人以上の入場者が見込まれるなど、世界最大のモーターショーとして大きな注目を集めての開催です。

こうした中で、今回も2輪車館の話題を集めるヤマハは「グッドバイク・フォー・グッドライフ」を主題に「バイクのある暮らしの豊かさ」をアピールして、話題を呼んでいます。ヨーロッパの街角をバックに、カラフルなパズルを配して「一家に一台」生活の動

具として定着したファミリーバイクの姿を楽しく表現したものです。

一方、ビッグスポーツバイクが作り出す「すばらしい走りの世界」を表わしたスポーツバイクコーナーには、「高品質・高性能・ハイメカニズム・ヤマハ」の象徴ともいえる「ヤマハX S1100」(輸出モデル)をはじめ、お客さま注目の新車群がそろって登場。「YZR750」「YZM400」の2台の世界チャンピオンマシンの強烈な印象とともに、スポーツユーザーの話題を最高度にもり上げています。

また、今回のショーのテーマ「みんなのくま。みんなのせかい」を表現したテーマ館

には「YA1」「YD1」「DT1」ロードレーサー「RD56」「RD05A」の「高性能ヤマハ」の系譜を展示、前回のショーで好評を博した「ファミリー・バイクランド」も今回さらに充実され、初心者と経験者別のコースが設けられて、安全思想の普及をはかりながら、バイク本来の高い効用性を広めています。

このように、大きな話題と期待が日ごとに高まっている第22回「東京モーターショー」から、ここに注目のヤマハ出展車をご紹介します。どうぞみなさまおそろいでご来場のうへ、話題うずまくヤマハコーナーの全容をご覧ください。

YAMAHA SPORTS

輸出モデル 参考出品車

XS1100 / XS750SE / XS650SE

イレブン

スペシャル

スペシャル



高品質・高性能・ハイメカニズムの象徴

XS1100

バイクファン共通の話題として、また2輪技術の頂点として大きな関心を集めているビッグマシンの中で、ひときわつよい衝撃をともなって初公開されたのが「ヤマハスポーツXSイレブン」4気筒車だ。

高品質・高性能・ハイメカニズム・ヤマハを象徴するこの「XSイレブン」は、海外おもにアメリカ、ヨーロッパ市場の要請に応じて開発された

もので、ゆとりあるパワーを安全、快適な走行に生かして高速ツアーを身近に、経済的に楽しめるよう考慮されたニューモデルである。

強じんなフル・ダブル構成のクレードルフレームにおさめられたエンジンは、DOHC 4気筒を並列においた1102ccで、後輪駆動にシャフトドライブ方式を採用。3.50H-19/4.50H-17のタイヤをはくアルミキャストホイールは、前輪にダブル、後輪にシングルの強力なオイル・ディスクブ

レーキを装備。4 into 2の排気システム、角型ヘッドランプも新鮮なデザインのこの「ヤマハスポーツXS1100・イレブン」は、まさに新しいヤマハのチカラを表わすものだ。

「マッソル」から「XSイレブン」まで、それぞれに時代の要請に応え、人々のニーズに合致したヤマハの商品づくり——、それは「グッドバイク・フォー・グッドライフ」の世界に立脚したものにほかならない。

ダイナミックなビッグスポーツバイク

XS750SE オフセットフォーク
スペシャルの前輪支持、テアドロ
ップ型の燃料タンク、
低位置タイプの段付ダブルシート、そして
マグラータイプのハンドルレバーと短いメ
ガホン・マフラーなど、ビッグバイクの世
界に新しいスタイリングを持たんだものが
「ヤマハスポーツXS750SEスペシャル」だ。

この、いかにもスポーツライクなムード
で従来の750にない軽快さを強調した「XS
750SEスペシャル」は、その新しいスタイリ
ングに数々のフューチャーを組込んでいる
ことでもバイクファンの目をひきつけたも
の、例えば前輪をオフセットで支持する
テレスコピックは3段切換え装置付クッ
ションをもち、ハンドルレバーはマグ
ラータイプに、さらにテールランプには
球切れチェック装置などが装備されて
いるほか、メインスイッチとステア
リングロック操作も一体化されてい
る。

DOHC、並列3気筒、シャフトドライ
ブのハイメカニズムによって確保され
ている高度なハイパフォーマンスは
すでに定評を得ており、さらに強化
された67PS/8000rpmのチューンで
安定した走行性能を高めているだけ
に、海外市場にあって注目すべき
商品として話題を賑わすこと必定だ。



ビッグマシンのプレイバイク

XS650SE オーソドックスな気
スペシャル品をたもち、バーチ
カルツイン独特の乗り味
がエンスージャストの心をとらえて、世界
の市場に根づよい人気を保つ「XS650」
にも、スタイリングを一新したニュー
モデル「ヤマハスポーツXS650SE
スペシャル」が加わり、ヤマハ
スポーツバイクコーナーの雰囲気
をいっそう盛りあげた。

低いシート高を確保する段付
ダブルシートと短いメガホン・マ
フラー、独自のハンドル形状によ
って重厚さの中に新しいデザ
インを生みだしている「ヤマハ
スポーツXS650SEスペシャル」は、
後輪に130/90S-16の太いタイ
ヤをはいて、プレイバイクとし
てのレパートリーを多彩に、安
全に楽しめるものとしている。

このほか新しいフューチャー
として握りの確かなマグラー
タイプのハンドルレバー、メイ
ンスイッチと連動させたステア
リングロック、オレンジ色に輝
く大型メーター、扱いの便利
な負圧式燃料コック、テール
兼ストップランプの球切れチ
ェック装置、ほか組込まれ、
安全走行の充実化が図られて
いる。



“モノ・サス” 装備で **新発売**

New

ヤマハトレール

DT125

新設計のエンジン、フレームに、6速ミッションと注目のヤマハ・モノクロス・サスペンションを装備して「ヤマハトレールDT125」が今回のショーでその全容を示し、新発売となりました。

一段と向上したパワーフィーリングに加えて、ソフトな乗

り心地と扱いやすい操縦安定性、さらに充実した安全装備とぞん新たなデザインなど、このニュー「DT125」は従来にも増して総合性能を高め、オフロードはもとよりオンロードでも十二分にその持味を発揮できるものとし、幅広い需要層の要望に応えられる商品性をもたせています。

カラー=サンシャインレッド



ヤマハトレールDT125仕様諸元

全長	2105mm
全幅	860mm
全高	1135mm
シート高	835mm
軸間距離	1335mm
最低地上高	270mm
乾燥重量	97kg
登坂能力	30°
最小回転半径	2000mm
制動停止距離	8.5m (35km/h)
エンジン	2st・7ポート・トルクインダクション・前傾単気筒
排気量(内径×行程)	123cc (56mm×50mm)
圧縮比	6.8:1
最高出力	13PS/7000rpm

最大トルク	1.3kg-m/6500rpm
始動方式	プライマリキー
点火方式	フライホイールマグネーター
燃料タンク容量	7.0ℓ
オイルタンク容量	1.0ℓ
潤滑方式	ヤマハオートループ
バッテリー容量	6V6AH
バッテリー型式	6N6-3B-1
点火プラグ	B8ES
キャブレター型式	VM24SS
エアークリーナー	湿式モルトブレーン
一次減速(比)	ギヤ(71/22=3.227)
二次減速(比)	チェーン(47/15=3.133)
クラッチ	湿式多板式
変速機	6段リターン式
変速比1速	3.500

変速比2速	2.214
変速比3速	1.555
変速比4速	1.190
変速比5速	0.956
変速比6速	0.800
フレーム型式	高張力鋼管セミダブルクレードル
キャスト	29°30'
トレール	123mm
タイヤサイズ(前)	2.75-21-4PR
タイヤサイズ(後)	3.50-18-4PR
ブレーキ	機械式ドラムブレーキ
懸架緩衝装置(前)	テレスコピックオレオ
懸架緩衝装置(後)	モノクロスサスペンション
ヘッドランプ	6V35W/35W
テール/ストップランプ	6V5.3W16V25W
フラッシャー/各種パイロットランプ	6V17V/6V3W

カラー=コンペティションイエロー



各部の特徴

エンジン関係

123cc 2サイクル・トルクインダクションはすべてにわたって新設計のもの。とくにそのパワーフィーリングは格別で、これは低中速域で十分なトルクの発生をもたせると共に高速域でシャープな回転の伸びをひきだすポートタイミングの設定と、クロスレシオ6速ミッションのマッチングのよさにより生れています。デザイン的にもラジアルフィンをはじめ大型冷却フィンの採用で、かぶよい印象をもたせています。

●シリンダーヘッド、シリンダーの冷却フィンを大型化、とくにシリンダーヘッドフィンはラジアル形状として放熱効果を高め、連続長時間使用にも安定した性能を保つものとした

●燃焼室形状をオフセットドームとして燃焼効率を高めた。またシリンダーは整備性のよい上下別締め式とした

●マフラーに大型サイレンサーを採用。また排気管に脈動効果を高めるチョークパイプを追加、中速域の性能向上を果たした。排気管とマフラーとの結合は洩れのないゴムジョイント式とした



- エンジンの性能向上に合わせて6速クロスミッションを新たに採用、シフトタッチの向上も図った
- クラッチは切れのよい、また調整幅の大きいものとした
- エアクリーナーケースを樹脂製とした

車体・電装関係

最大の特徴となるド・カルボン式のモノクロスサスペンションの採用により、オフロード走行の性能を一段と向上、同時にオンロードの乗り心地も高め、軽快なフットワークをもたせました。また電装関係を強化、リヤフラッシュランプのステーはスプリングをゴムモールドしたフレキシブルステーとし、破損防止を高めています。

●ヤマハ・モノクロス・サスペンションの採用により、後輪の上下動ストローク（ホイールトラベル）を145mmに増大、またクッションダンパーにバンプストップを採用、底突きショックを解消した

●新設計のセミ・ダブルクレードルフレームは高張力鋼管製とし、メインパイプは「DT250」と同

じ太径とした。またリヤアームエンドは後輪の脱着が容易な開放型とした。

●セリアーニ型のフロントフォークにラバーブーツを装着、耐久性の向上を図った。また180mmのクッションストロークをもたせ、前後バランスのとれたサスペンションとした

●バッテリーケース、ツールボックスは樹脂製のエアクリーナーケースと一体化させた

●“モノ・サス”の装備にとまない、増大したリヤホイールトラベルに対処してスリッパタイプのチェーンテンショナーを採用、ドライブチェーンのおどりをおさえてチェーンの誘導を確実なものとした。またチェーンケースを大型化、チェーンオイルの飛散防止と泥かかりを防止した

●燃料タンクキャップは1回転で確実にロックできる操作性のよいものとした

●前輪に片ハブを用いるなど、総合的に軽量化を図り、97kg（乾燥）の車体重量とした

●バッテリーを6V6AHに容量アップ、ACレギュレータを採用、安定した電圧コントロールを図った。またヘッドランプは上下35ワット化し、明るさを増した

●リヤフラッシュランプにフレキシブルステーを採用、接触、転倒時などのショックから守る破損の少ないものとした

ロードスポーツに話題のビッグシングル

YAMAHA SPORTS SR400 / SR500

参考出品車 来春発売予定

マニアックなユーザーの間にセンセーショナルな話題を提供し、ファンの熱いまなざしを全身に浴びて注目されたのがビッグシングル・ロードスポーツの「ヤマハスポーツSR400」と「ヤマハスポーツSR500」だ。

タンクインフレームの軽量・頑健なフレームにSOHC単気筒のコンパクトなエンジンをのせた基本設計は、オフロードをこなしオンロードも制すデュアルパーパスマシンとして専門家筋からも高い評価を得ている「XT500」のすぐれた特長を受継ぐもの。これにロードスポーツとして適切な前後サスペンションを配し、DC点灯の大型ヘッドランプをはじめキー付キャップ・負圧コック付の燃料タンク、低位置785mmのシート高、メインスイッチと連動のステアリングロック、大型メーター、そしてオイルディスクブレーキのほかCDI点火に加え新機構のキックインジケーターを装備するなど、新しいフューチャーが数多く組み込まれて開発されている。

一般的にいった、ビッグシングルの場合その始動性や特有の振動発生が難点とされているが、ヤマハではこうした技術的問題点はすでに「XT500」でみごとに解決しており、軽量、簡潔、スリムな車体構成に、特有の強大なトルクでダイナミックな加速感が生みだされるビッグシングルの特味が、今回「SR400」「SR500」によってロードスポーツの世界に開花されたことは、新しい需要を目覚めさせ、このクラスの市場を一段と活気あるものとしよう。

とくに「SR400」の開発は、このビッグシングルのマニアックな性能を中型免許で味わえるものとしたことで注目度は高く、新発売のあかつきには中型2輪市場に新風を巻き起すものとなろう。

SR500



Good Bike for Good Life

SR400



ドック



11月7日は立冬、冬將軍の到来ももうかけ足です。年末商戦の準備にあわただしいご主人、冬ものの準備にお忙しい奥さま。でも忙中閑あり、お客さまとおそろいで東京モーターショーの見物や、紅葉を求めてのツーリングなど、残された今年のバイクシーズンを楽しんでみたい季節でもあります。

紅葉前線

今年、関東地区あたりでは8月が長雨と低温にたたられたために、紅葉の時期も遅れるのでは、と心配されていましたが、9月に入り好天が続いて日照時間も大幅に増えたため、紅葉前線の南下も順調で、各地とも見ごろは「ほぼ平年並み」というのが、気象庁の長期予報です。

もちろん、これから見ごろという地方は関東以南。関東から西日本一帯にかけて11月20日前後が最盛期というところで、

ところで、この紅葉、カエデ属の植物が気温の低下につれて葉に生理的反応を起し、緑が、赤、黄、かつ色と変化していくものです。ひとくちに紅葉する植物を「もみじ」と呼んでいますが、その数はなんと100種以上もあるとか。

こんなことも頭に、優雅な「もみじ狩りツーリング」などを楽しまれてはいかがでしょう。

黒いタイヤ

あてやかな紅葉は、まさに大自然が一年がかりで描きあげた錦絵。逝く秋を惜しみ

ながらの「もみじ狩り」は、なんとも日本的な風情ですが、これも秋から冬へ、すべてが一日とセピア調に、色どりを失っていく中だけに一層感傷を持って眺められるのではないのでしょうか。

そういえば、カラフルな夏にくらべ、お店の周辺もだいたい地味な色調になってはいませんか。こんな時こそカラフルなバイクやツール類を効果的に使って、華やかな演出を心がけたいものです。

ところで、バイクは年ごとに色どりを増していくのに、タイヤだけは依然として黒などと不審に思われることもおありでしょう。タイヤが黒いのは、ゴム質の中に入れるカーボン・ブラックという補強材のためです。このカーボン・ブラック以外に、ゴムの強度を増し、摩擦力を強める補強材が出現しない限り、カラフルなタイヤの登場はいたしかならないというわけです。

霧の降る夜は……

11月の古名は霜月、いわれはともかく下旬ともなると霜も降り始めるにあつて、最も分りやすい名前の月といえそうです。

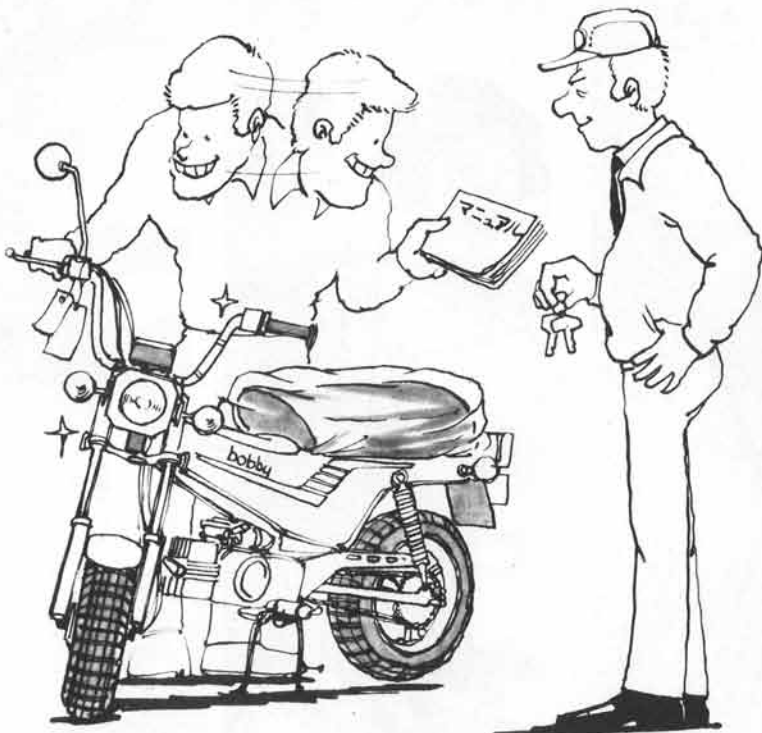
秋まきの草花には霜よけを施し、霜が降りて葉や茎が痛んできた球根は掘りおこして、氷らないよう保存を始める時期です。

また、この季節は霧が立ちこめる夜も多く、夜間走行には思わぬ難敵となるものですね。

でも「霧の降る夜は晴れる前兆」とか。大地が冷え始めると空気中の水蒸気が、凝結して細かい水の粒を作る、これが霧の正体で、夜間、空が晴れて大地の熱が放射さ

秋もめっきり深まって、あたりの自然や道行く人のファッションも日ごとにシックになっていく11月。色どりの消えていく街なみにあわせて、店頭の色などにも、改めて目を向けてみたい晩秋です。(写真/オリオンプレス)

読んでから乗るか、乗ってから読むか？



れやすくなると、霧が降りやすくなるといっわけです。

ちなみに、下から上に立ち昇るように見える朝霧は、雨か曇の前兆です。

勤労感謝の日

11月23日は今年最後の国民の祝日・勤労感謝の日。お年寄りには新嘗祭(にいなめさい)で親しまれた生産を祝い、働く人びとに感謝しあう日というわけです。

ついこの間までは、一家の大黒柱となつて働くご主人、お父さんに、家族全員が感謝を込めて……といった情景が一般的でしたが、パートなど働く女性の増加で、こんな光景も一変してしまつたようです。

でも、お子さまたちが働くご両親に感謝を……などというの、また良いもの。お店の23日は、いかがでしょう。

働く奥さまの足となって活躍するパッソルやチャビイにも、ぜひこんな折りに目を向けてほしいものです。

私は奥野商会の 原付免許教室講師です

奥野 洋子さん

奥野商会・奥野忠昭社長夫人

大阪と和歌山を結ぶ唯一のバイパスを果たす国道26号線。大阪から約30kmほど南に位置した岸和田市で、ご商売の奥野商会（奥野忠昭社長）さんの本店は、まさにこの道路に面している。朝夕の通勤時にかわりなく、ひっきりなしに行き交うクルマ、くるま。奥野社長のおさま・洋子さんもまたこれらの風景と同様に、一日の大半を忙しさの中に身を置いているのである。

奥野商会さんにおける洋子さんの活躍として、まず第一にあげられるのは原付免許教室の専任講師。毎週金・土・日の3日間、月12回の教室は、すべて洋子さんの手によって進められているのです。

「実のところ、私にとって免許教室は、もう仕事を通りこしたところの一種の個人的な楽しみになっているんです。これからバイクに乗ろうという人たちに免許の手ほどきをする。そして、その人たちがめでたく合格をして、それぞれの生活の中でバイクを楽しんでいる。そんなことを考えると、とても嬉しくなってしまうんですね。」

それともうひとつは、免許教室の講師は私にとって副業、いや本業ともいえるということ。もともと主人は受講料を売上げとしては考えていなかったため、教室の受講料はそっくりそのまま講師料として私のポケットマネー

ーになっているんです」

一人教えることにポケットマネーが……となれば、洋子さんに限らずともその教え方に熱が入ってくるのは当然のこと。しかし、逆というなら、それだけ洋子さんの両肩に、その責任がズシリと重くのしかかっているというところでもあるのです。

「そうなんですよね。たとえ、わずかであっても講師料という名目で受け取っている以上、その責任は重大です。」

ですから、本試験の合格率なんかはそれこそ気がかりもいところ。あまりにその率が低い時などは、いつクビを切られるかと心配で……（笑）

いまでこそ冗談として話しているものの、現在に至るまでの洋子さんの苦勞は、はかり知れません。とくに、免許教室を開始する前後は試行錯誤の繰り返しで、幾度となく投げ出そうと思ったことも。

「実際、こんなにも『指導』ということが難しいとは思っていませんでした。ましてや私は引つ込み思案の性格だし、最初は自信なんてまったくゼロ。ですから、初めのうちは、それこそとても講師だなんて名乗ることが恥しかったくらいです。」

でも、それだけになんとか早く一人前になりたかったのも事実で、まずは勉強のつもりで本試験を受けに行っただけです。3度、4度、そし



◇免許教室の会場は上町店の2階に特設
 ☆「問題は、最後までよく読んでください」
 — 洋子さんの体験に基いた細かな心遣いは受講者の中で大好評
 ☆SP5000でまず2時間、さらに練習問題と復習を1時間ずつの計4時間が奥野商会さんのカリキュラム内容



「自分にはないものをうまいこと求められた」とは、ご主人の奥さま評

奥さま
出番です

て5度と通ううちに、なんとか合格できるコツを習得。また、その頃から、ようやく人前でも自由に話ができるようになったものです。そんな苦勞のひとつひとつの積み重ねが実を結んだのか、いまやSP5000を使った洋子さんの免許教室は大賑わい。もちろん、奥野商会さんの新規需要客の数も、グリーンと飛躍を遂げています。

「当初は、とても講師なんてできるとは思え

なかった」と語る奥野社長も、この頃はまさにカプトをぬいだ感で、「いまでも口ではボロクソに言っていますが正直な話、嫁さんがいなかったらうちの店はやっていけないでしょう」と大賛辞。これに答えて洋子さんも「家庭を犠牲にしてまで仕事をしたくはありませんが、免許教室だけは例外!」と、さらに意欲を燃やしているのです。

(大阪府岸和田市本町16-3)





国際色ゆたかに白熱したレースを展開 '77ジャパンカートレース

盛況の

日本で初めての本格的なインターナショナル・イベントとして注目されていた「77ジャパンカートレース」が9月22日から25日の4日間にわたり、スポーツランド菅生で盛大に開催されました。日本のカート界の歴史に大きな足跡をしますとともに、その一層の発展のためのひとつの跳躍台ともなるこのビッグイベントを祝うように、4日間とも菅生の空は快晴に恵まれ、内外のトップドライバーやメカニック約500人と、1万2千人を越す観客が、走る人、サポートする人、見る人それぞれの立場から新しいモータースポーツ、カートレースの醍醐味を満喫したものでした。

ゾーゼル優勝、杉山は3位に

25名がラップ記録を更新

仙台放送とSLKC（SLカートクラブ）の主催で行なわれた「77ジャパンカートレース」は、インターナショナル部門とナショナルレース部門とに分かれ、インターナショナルレースには、ホンコン、フィリピン、インドネシア、オーストラリア、アメリカ、オーストリアの6カ国から計14名のドライバーが参加、これに国際ドライバーズライセンスを持つ日本の33名のトップドライバーを加えて、総計47名の間で4日間にわたるスリルとスピードの祭典をくり広げた。

このインターナショナル部門は「パンフィック・チャンピオンシップ」と「ジャパン・チャンピオンシップ」、そして「インターナショナルチームレース」の3レースからなるもの。「パンフィック」と「ジャパン」は個人レースで、タイムトライアルと予選ヒートの結果により、上位30名が「パンフィック」、下位17名が「ジャパン」の覇権を争う仕組みだ。「チームレース」は日本を含めた7カ国の代表選手3名ずつ（2名以下の国には日本人ドライバーを補充）計21名で行なわれる国別対抗レース。

一方、ナショナル部門は、北海道から沖縄まで国内各地で行なわれているSLシリーズ

戦を勝ち抜いてきた精鋭が、「77SLチャンピオンレース」としてその技量を競うもの。こ



国際色豊かな大会を象徴する各選手団のパレード



①トニー・ゾーセルの走りからどの選手も実に多くのことを学んだ

②チームレースに優勝したオーストラリアチーム。左から菅家安智、ハワード・ヒース、藤原隆。ここにもひとつの国際親善が

③「ママは早かった」SLチャンピオン2位入賞の野田加代子さん



「パンフィック・チャンピオンシップ」での超一流カーターの走り。②が優勝したゾーセル。①が2位のヒース。④は3位の杉山、⑤は6位の望月新一

女性ドライバースも大活躍

マスコミも注目のカートレース

12才になれば男女の別なくライセンスを得でき、その競技人口5000人、日本では最も多いモータースポーツ人口に急成長したカートレース。これを反映してこの大会には、地元仙台放送を始め、新聞社や若者向けの雑誌社など多くのマスコミが取材に訪れた。その取材対象としてゾーセル、ヒースらの超一流選手に負けない人気を集めたのはほんコンのローズ・ガン、ダイアナ・ブーン、日本の野田加代子（SLチャンピオン2位）、飛沢美千代といった女性ドライバース。いずれも男性の一流ドライバースと対等にテクニクを競い、スピードとスリルにあふれるカートレースに華やかな色どりをそえて人気を博した。

日本で初めての本格的な国際カートレースとしての今大会、レース自体においてお互いの技術向上に役立てた意義もさることながら、4日間を通じてあらゆる機会に、カートを接点とした人と人、国と国との交流が生まれたことも大きな収穫で、とくに最終日のレース終了後には、お互いの健闘をたたえ合って、「See you again」(また、会いましょう)の言葉がそこ、ここで聞かれたものであった。なお、SL関係の優勝者は左記のとおり。
Aチャンピオン 渡辺達男(福島)、Sチャンピオン 大橋光(福島)、Sオープン 伊藤永市(新潟)、SLチャンピオン 七田一徳(佐賀)、SLストック 横川忠(福島)。

れには、「Aクラスチャンピオン」、「Sクラスチャンピオン」、「Sクラスオープン」、「SLクラスチャンピオン」、「SLストッククラスチャンピオン」の5レースが組まれた。さて、ドライバースの名誉と優勝賞金100万円をかけたメインレース「パンフィック・チャンピオンシップ」は、オーストラリアからはるばる参加したトニー・ゾーセル選手が抜群の走りをみせて優勝。2位にはオーストラリアのハワード・ヒース選手が入り、日本の杉山茂雄選手がこの両者を追って健闘よく3位に入賞し、やんやの喝采を浴びた。

ゾーセル、ヒース両選手の走りはさすがに素晴らしい、タイムトライアルから決勝まで注目の的。とくに、ゾーセル選手はタイムトライアルで54秒68のベストラップをマーク、これまでの菅生のコースレコード56秒43を大中に短縮した。

ここで注目したいのは、世界選手権で常に上位の成績をおさめているゾーセル選手の走りに刺激されてか、インターナショナル部門のタイムトライアルでは上位25名までがラップ新記録をマークしたこと。とくに、このうち20名が日本のドライバースで占められたことは、今後の日本のカート界の発展にとつて、大きな収穫といえるものである。

「ジャパン・チャンピオンシップ」においても日本勢は、ホンコン、フィリピン、インドネシアなどの遠征組を押えて、榎本昌憲(静岡)、原口茂夫(東京)両選手が、1、2位をとり、フィリピンのフェデリコ・P・カンボス選手が3位に入賞した。

チームレースでは、ハワード・ヒース、菅家安智(東京)、藤原隆(東京)3選手のオーストラリアチームが、平均して好成績を上げ総合優勝した。



世界チャンピオン

ミッコラを迎えた雨とドロ沼の最終戦 ヤマハ勢7クラス中6タイトル獲得

MOTOR SPORTS

昨年と同様、77シリーズ最終戦となったモトクロス日本グランプリ大会は、10月8、9日の両日にわたりスウェーデンで開かれた。

あいにく雨にたたられ、ドロ沼と化したコースでのレースとなったが、今年度500cc世界チャンピオンを獲得したH・ミッコラ選手の出場とあって、熱心なファン約1万5千人が見守る中、全国の精鋭360台のマシンとライダーはドロ沼の戦いをくり広げた。中でもヤマハ車勢は各レースに健闘、今年度のランキング争いでも、7クラス中に6つのタイトルを獲得した。

お目当てのミッコラがYZM250で出場したのはインターナショナルレースとなったセニア250ccレース。第1ヒート。スタート直後の、数周はトップを行く鈴木秀明（ホンダ）をびったりマークして落ち着いたライディング。秀明は懸命に逃げて、15分経過した所で満を持していたミッコラにつかまる。それから全くミッコラのペース。終盤に藤秀信が秀明をかわして2位に上がる頃には大差がついていた。

第2ヒートは番狂わせになった。光安鉄美が世界チャンピオンを破る、大金星をうち立てたのである。

深いわだちのできた泥沼のコースは極めて走りやすく、一台がストップすると後続車は次々に進路をはばまれ大きく後退せざるを得ない状況が全てのレースに見られ、ラップされる選手が続出して順位の確認が困難となる。この2ヒート目もこの例にもれず、1周目にミッコラは大きく

後退。この間に飛び出たのが光安。光安が大きく2位を引きはなす間にミッコラは前を行く選手を次々にゴボー抜き、4周目には2位に上がった。この時はトップに立ったと思つたミッコラは、半周以上の光安との差を徐々につめるも結果的には光安に逃げ切られた形となった。

いずれにしてもセニア一年生、弱冠19才の光安のこの快挙はまさに称賛に価するもの。一方、ミッコラの1、2ヒートを通じてのダイナミックで安定した世界一の速さは、観客のみならず日本人ライダーの肝を抜くものであった。

さて、ミッコラの走りを目を奪われがちながら忘れてならないのは、この第2ヒート目3位に入った瀬尾勝彦。瀬尾はこれによりランキングポイントに1点を加え、この大会全く不振に終わった竹沢正治（カワサキ）とのタイトル争いに決着をつけ、すでに決定していた125ccとともにダブルタイトルを獲得、バーフェクトなセニアチャンピオンの栄光の座についたのである。

瀬尾は前日の125cc第1ヒートでも秀明にせり勝ち、このクラス7勝目を上げタイトルを不動のものとした。2位秀明、3位光安。光安は第2ヒートでも、優勝こそ秀明に取られたものの2位に喰い込み、この大きな大会で大活躍、若いだけに今後の一層の成長が期待される。

エキスパートジュニアでは250ccにおいて大泉浩一（ヤマハ）が2位に入り、ランキングポイントでは優勝した立脇三樹夫（カワサキ）を押えてタイトルを獲得。大泉は12



パーフェクトで念願のセニア・チャンピオンになった瀬尾、TVインタビューを受ける表情も喜びでいっぱい



★第14回モトクロス日本グランプリ大会
'77全日本選手権第10戦



若手のホープ小沢孝。その走りはすでにエキスパートのもの



来年はまたどこまで速くなるか 光安鉄美

5ccでも2位と大健闘、ランキングでも2位。このクラスのタイトルは1点差で佐藤健二(ヤマハ)に。ジュニアでは小沢孝(ヤマハ)のダブルタイトルに期待が寄せられた

が125ccでは独走優勝で文句なかったものの、250ccでは無念の涙を飲んだ。90ccは渡辺義巳(ヤマハ)が優勝とともにタイトルを獲得した。

★全日本モトクロス選手権第9戦九州大会

藤、S125で連続優勝

モトクロス日本GP開催を1ヵ月後に控えた9月18日、熊本は阿蘇の雄大な斜面を舞台に、たくましい男のスポーツが、きびしい残暑のもとに展開された。

阿蘇大観峰の特設コースは、はげしいアップダウンとギャップの多い全長約2kmのコース。好天のため、かわいた火山灰地特有の黒い砂ほこりを巻き上げて、参加250名のライダーは、はげしい男の戦いをくり広げた。

第8戦の新潟大会に続き、地元福

岡県出身の藤秀信はYZM125でセニア125ccに連続優勝を飾り、かけつけた多くのファンにその勇姿を披露した。

40分+2周の1ヒート制で行なわれたセニアのレース。125ccのスタートは例によって瀬尾勝彦、杉尾良文、藤、光安鉄美らのYZM軍団が先行グループを形成。これを鈴木秀明(ホンダ)、小田切信雄(スズキ)がマークして行く。

20分経過した所で、トップ争いは瀬尾と藤にしばらく、光安、秀明、



走りに自信と余裕を持ってきた藤秀信

杉尾が第2グループで続く。しかし、地元の声援を受けた藤は30分過ぎに瀬尾をかわしてから次第に差を広げ、トップでチェッカーを受けた時には2位の瀬尾に大差をつけていた。3位は秀明、4、5位は杉尾、光安がそれぞれ入った。

(スズキ)が初優勝、大関正典(スズキ)が2位、秀明が3位とヤマハ勢はふるわず、光安と杉尾が4、5位を分け合った。

一方、若手でのヤマハ勢の活躍が注目された。エキスパートジュニアでは大泉浩一、ジュニアでは小沢孝がそれぞれ125、250ccでダブル優勝。大泉はこれで250ccのタイトルに大きく前進、また小沢は両クラスのチャンピオン獲得が有望になった。

★全日本トライアル選手権第5戦東北大会

加藤、マシンに慣れて本領発揮

BPでランキングのトップに



5月29日の第4戦以来、約3ヵ月半のインターバルを置いて再開された全日本トライアル第5戦は、福島県猪苗代国際スキー場を舞台に、快晴のもとで行なわれた。

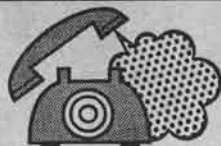
会場は磐梯朝日国立公園内のスキー場だけに、広々として高低差もあり、セクションもマディー、ロック、川など変化に富んだものでライダーからも「雄大な眺望で走りやすいコース」と上々の評判であった。

スキー場のグレンデヤ林道に設けられたコースは15kmで、15のセクションをエキスパート(41名参加)が3ラップ、ジュニア(24名参加)が2ラップで争われた。

第4戦まで、ノーマルのTY250で参戦していた加藤文博は、この大会からワークスマシン「YZT250」で出場、「夏のインターバル期間中、このマシンでみっちり練習を積み、マシンにも十分に慣れた」(加藤)という事で、ワークスマシンの性能を十二分に引き出し、安定した走法でベストパフォーマンスを獲得した。2位には新鋭の丸山胤保(ホンダ)、3位は黒山一郎(スズキ)。

この結果加藤は、ヨーロッパ遠征でこの大会不出場の近藤博志(ホンダ)に2点の差をつけて、ランキングのトップに立った。「あと2戦で2点差というのは同点と同じで、結局BPを取らなければチャンピオンにはなれない。マシンも私自身も調子は良いので、あと2戦なんとしてがんばります」とは自信あふれる加藤の言葉。期待したいところだ。

ワークスマシンとのコンビネーションも上々の加藤文博



05383-2-1111

内線355

こちらヤマハ発動機

PR課です

お電話でも、おハガキでも、お気軽に楽しい話題、明るいニュース、これは!と思う情報をお知らせください。ご質問、ご相談、本誌へのご要望もどうぞ。原稿、写真のご投稿も大歓迎です。

宛先は 〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社・PR課

※ニュースによっては、編集部員が直接取材にお伺いいたします。

〈今号の表紙撮影には「日本ホームズ」のご協力をいただきました〉

この話題をどう商売に!

ヤマハ・パツル 「グッド・デザイン賞」受賞 選定証授与式ひらかる

前号でご報告のように「ヤマハ・パツルS50」が、通産省の「Gマーク（グッドデザイン）商品」に選定されましたが、去る10月7日、東京浜松町の貿易センタービル38階のスカイルームにおいて、この選定証授与式が行われました。

造形性、機能性、獨創性、安全性、耐久性などデザイン、品質の両面からの厳しい審査基準に従って審査、



検査され文字通り「高品質・高性能」の商品にのみ与えられるのが、この「Gマーク」です。

当日はヤマハ発動機を代表して水易技術部長が出席、晴れの選定証を授受しました。本年度の選定商品が一堂に展示された別会場では、「バイクに乗れない人や、女性が持つバイクへの疎遠感をぬぐい去り、日常生活の足として、親しみのもてる、やさしさ」をみごとに表現した（審査評）と高い評価を集めたパツルに、他の受賞者やGマーク振興の推進役である通産省の方々など、関係者の大きな関心が寄せられていました。



グッド デザイン 選定証

52 頁 445
770115
原動機付自転車
2E 9
ヤマハ発動機株式会社
154444 1 池入様



上記の商品は、そのデザインが優れたものとして選定されたことを示します。

52 x 9 x 7.0

通産省省貿易局長 西山敬次郎



「XSイレブン」注目のラインオフ開始! 高品質・高性能ヤマハのシンボルいま欧米に!

東京晴海で開催中の第22回東京モーターショーでも、ひととき高い評判を集めている「ヤマハスポーツXS1100」。高品質・高性能ヤマハのシンボル商品としてこの「XSイレブン」に寄せられる海外からの関心も日ごとに高まってきています。

さて、このショーに先がけ、去る9月10日には、「XS1100」の第一号車が、本社工場5号館に新設された、4サイクル・ビッグマシン専用ラインからラインオフ。

多数の関係者の拍手の中で、杉山・製造担当取締役、田中・技術担当取締役がテープカット。アメリカおよびヨーロッパ市場における期待の商品として、力強い第一歩を踏み出したものです。



品として、力強い第一歩を踏み出したものです。



杉山(右)、田中両取締役のテープカットで、注目のラインオフをする「XSイレブン」第1号車

パッソルもお嫁入り道具

パッソルで仲良し親子の東さん



〔久留米営業所〕発売以来7ヵ月、全国各地で「パッソル」の好調な売れ行きがつづいていますが、こちらでも販売店さんのご活躍で多くの新しいお客さまが日常生活にパッソルを使用しています。

誰れにもやさしいパッソルの場合、そのユーザー特性はなんといっても、巾広さにあります。単に家庭の主婦だけでなく、若者からお年寄りまで様々な層の方たちにいろいろな使われ方をしています。

久留米市内にお住まいの東チドリさんは、個人タクシーを経営なさっているご主人と、2人のお嬢さんをお持ちの奥さまで、簡易保険の勧誘

のびのび、大きな子供のユメ
パッソルぬり絵コンテスト



ここにご紹介するパッソルのぬり絵の数々。いずれもカラーでご覧いただけないのが残念なほど、色あざやかな出来ばえのぬり絵ばかりですが、これがあると6歳から11歳までの児童による作品というから驚き。

このぬり絵、実は今夏にヤマハ茨城㈱が県内の小学生以下の児童を対象として開催した『パッソルぬり絵コンテスト』での受賞作品の一部。2ヵ月にわたる期間中、寄せられた応募作品の数はなんと2,000点にものぼったものですが、その後の水戸駅前・高島屋ストアにおける展覧会も大好評を博し、誰にでも簡単に乗れるパッソルのPRに一役買ったものです。



父兄同伴でなごやかに行なわれた表彰式

と集金のお仕事をなさっています。パッソルを使用するきっかけになったのは豊福商会（豊福運吉社長）さんの熱心なおすめ。「原付免許を取る段階からアフターサービスまで実によく面倒を見ていただきました。以前は自転車だったんですが、バイクがこんなに便利だとは思いませんでした。豊福さんには本当に感謝しています」と東さん。毎日相当の距離

大都市繁華街の

ビルの13階で免許教室



交通至便な都心のビルでの定地定期開催

（九州支店）西日本最大の100万都市福岡。その繁華街天神は、デパート、銀行、地下街の集まったショッピングセンター。この天神にある朝日会館というビルで、9月14日から毎週水曜日ごとに原付免許教室を開催しています。大都市の中央での定地定期開催は、全国的にも新しい試みと思われまます。

これは、従来の販売店さん単位による単独開催、各地域ごとの合同開催に加え、100万都市全域を対象としたものを毎週開催することで、より多くの人に免許教室受講の機会

離を走るので、そのうちチャビイに替えたいとおっしゃっています。さて、上のお嬢さん、絹子さんはそろそろ適令期。まだ免許は持っていませんが、お母さんがパッソルで快適な毎日を送っているのを見るにつけ、来たるべきご自分の新しい生活にも是非パッソルを、とのことで庭に置いてあるパッソルに座っては未来を夢見しています。（山村）

を提供しようというものです。したがって、開催に当たっては販売店さんの協力を得て、地元の新開チラシを通じて中広い動員方法をとっています。平日の開催でもあり、出席者のほとんどはショッピングがてらの家庭の主婦。回を重ねることに口コミの効果も出ています（坂田）

各地で盛況の安全活動

さわやかな秋の深まりとともに全国各地で乗り方教室、安全講習会、安全運転コンテスト……といった多彩な安全活動が、各地のフレンド店さんの協力、参加のもとに開かれ、パッソルやチャビイなど、ファミリーバイクの浸透に拍車をかけています。

フレンド店20店連合で安全運転コンテスト開催

（ヤマハ群馬）群馬県の渋川地区は、フレンド店がこぞって改造車の修正や事故の減少に積極的に取り組んで、交通安全に対する認識の高い地域ですが、去る9月25日には、こうしたフレンド店さん20店が連合で地域の「安全運転コンテスト」を開催しました。地元警察や安全協会と一体となっ



受講生のほとんどは家庭の主婦。「毎週開かれるというので、自分の買い物の都合に合わせて受けられるのでとても便利」という声も

て渋川自動車教習所に、8月の全国安全運転コンテストと同パターンのコースを設定。高校生、一般男子、一般女子の3部門に約70名が法規走行のテクニクを競いあいました。ファミリーバイクの定着ぶりを物語るように、一般女子の部での主婦の健闘ぶりが目立っていました。来

年はぜひ8月の全国大会にタイムイングをあわせ、群馬代表を渋川から」といます。

参加者も主催者も大いにはりきって

人口7000の町で150人が参加
岡山県加茂町の乗り方教室



2回目で飛躍的な盛況をみせた加茂町の乗り方教室

（ヤマハ岡山）津山営業所）岡山県苫田郡加茂町の交通安全協会では、9月20日、町民グランドで、二輪車安全運転乗り方教室を開催。津山警察署とともに、ヤマハ岡山もこれに協力して、特別指導員、指導員を派遣しました。

人口約7000の加茂町ですが、当日はなんと120台、150人ものユーザーが参加。熱心に講習を受けました。

昨年について2回目の催しですが、ソフトバイク時代を反映して、女性の参加者が目立ってふえているのが印象的です。

バイクランドに人気

第1回交通安全フェア開く

国民の一人一人に交通安全思想の普及の徹底と正しい交通ルール実践の習慣づけを行なおうと、総理府交通安全対策室が中心となって計画をすすめてきた「第1回交通安全フェア」が9月18日から22日までの5日間にわたって、東京科学技術館で開催されました。

同会場に設けられたバイクランドでは、実体験を通じて女性、ママさんを中心に交通コーナーと乗り方などを教育するバイク教室などが開かれ、盛況でした。

2日目が豪雨で中止されたにもかかわらず延べ310人がバイク教室を受講。バイクへの関心の強さを物語っていました。



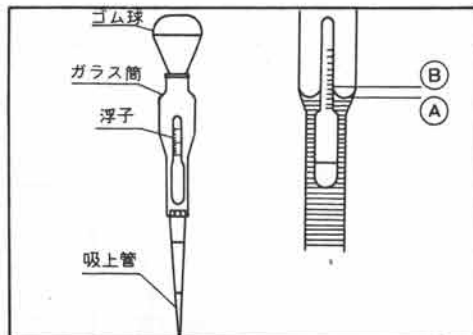
女性インストラクターも活躍したバイク教室

バッテリーのチェック

これから冬に向い、バッテリーの性能が低下しがちです。エンジンの始動や回転の良否はともかく、フラッシャーやストップランプの電源となるバッテリーの役目は、安全運転を守る上からも大切です。この際、バッテリーの保守に目をむけてみましょう。



各種のバイク用バッテリー(新旧)。左右は6V、中央が12Vで、バイクでは始動がセル式のものすべて12Vバッテリーを使用。



吸込比重計と目盛りの読み方。④で読むのが正しい

1. バッテリーの役割

バッテリーは鉛蓄電池といって、電気エネルギーを化学エネルギーとして蓄え、必要に応じて電気エネルギーとして取り出すことができ、これをくりかえし行なうことのできるものです。この点が1回の使用で寿命がつかってしまう乾電池などとちがうところです。

バッテリーの役割はすでにご承知のようにエンジン始動、点灯、ホーンの電源として使われているもので、エンジン回転中には発電機によって電力が供給され、この点で、常に充放電がくりかえされています。

2. バッテリーの諸特性

バッテリーにはご存知のように電解液といって希硫酸が入っています。そしてバッテリーはその化学性質上、放電するにしたがってこの電解液がうすくなり、電解液の比重が低下し、逆に充電中には濃くなり、比重が上昇してきます。これはバッテリーの大きな特性で、充電状況は電解液の比重を測定することによって判別することができます(完全充電時の比重は液温20℃で1.260)。

またバッテリーはぜんぜん使わなくとも自己放電により、その能力は徐々に低下してきます。ひとたび電解液を入れたバッテリーはこの特性を避けるわけにはいきません。したがって補充充電が必要となります。

バッテリーの能力は、充放電に関連する装置の良否のほか、使い方によってもいろいろと異なります。例えばエンジン始動をセルで行なう方式では、一時的ながらも高電圧、大電流を必要としますので、エンジンのかかりかわるいからと連続してセルをまわしつづけたらすると、すぐにその能力を使いきってしまいます。ただバッテリーには自己回復能力があり、このために、セルを使用する場合は1度でかからない場合は、しばらく休んで使うわけです。もちろん、こうした使い方も能力の回復には限度があります。

また気温が低い場合はバッテリーの動きは低下し、電解液を氷結させたりすると寿命は著しく損なわれます。保守が行届かず、バッテリーが放電状態のまま放置されていたり、電解液不足で内部の極板が露出されたまましていると、サルフェーションといって、極板に白色結晶が発生し、バッテリーはその能力を回復することができません。

バッテリーの能力すなわち容量の大きさはアンペア/アワー=電流/時間、例えば2 AHなどと表わされます。これは2アンペアの電流を流して1時間の容量をもつことを意味します。したがって0.2 Aであれば10時間もつということでもあります。

3. バッテリー点検と取扱い

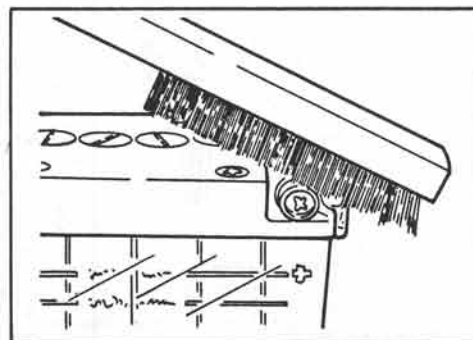
すでに使われているバイクのバッテリーについては、セル始動の能力、ホーンの鳴り具合によって、その充電状態のおよその見当はつけられますが、正しくは比重計を使って充電状態をみるべきです。この場合、比重計は小型のものの方が便利です。というのはバイクに使われているバッテリーは小型のものが多く、比重測定までの電解液容量をみだせないこともあるからです。また比重計の目盛は目の位置に正しくおき、電解液の高さは右上図のように読みとります。比重1.20~1.26であれば良好です。

そのほか—

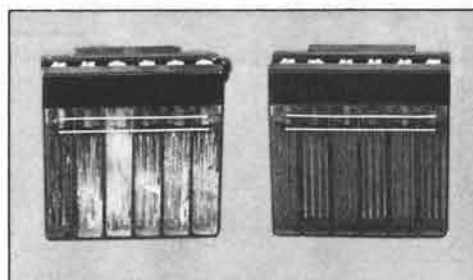
- ①サルフェーション → 発生は交換
- ②極板の脱落 → 有るものは交換
- ③ターミナルの腐蝕 → 清掃、研磨
- ④リード線の腐蝕 → 研磨
- ⑤電解液量 → 不足は精製水を補給
- ⑥排気チューブ → 折れ、つぶれをなくす
- ⑦バッテリー容器の確認 → 破損の有無などを点検します。

電解液の比重が1.20以下にある場合はもちろん補充充電が必要です。またお手もとに「ヤマハポケットテスター」があれば、DC Vで+をバッテリーの+に結線すれば電圧測定が可能です。規定電圧以下であれば補充充電が必要です。また、この補充充電は表示されているバッテリーの能力の10分の1の電流で行ない、充電中に液温が45℃以上になるようでしたらバッテリーを冷やすか、充電電流を小さくします。クイックチャージといわれる急速充電は、普通充電より大きな電流を流すために液温の上昇が高くこの点注意が必要です。

充電中は電解液が泡立ち、ガスを発生しますので、密閉された場所で行なったり、火気を近づけたりするのは危険です。なお、30分毎に3回以上電解液の比重を測定し、比重が一定値であれば充電は終了です。6 V用=6.5 V以上(1.250~1.270)、12 V用=13.5 V以上(1.270~1.290)。



バッテリー端子はワイヤーブラシで錆などをおとし磨きあげて接触させること。グリースを塗っておくとよい



正常なバッテリー(右)とサルフェーションを起して極板が白くなったバッテリー(左)

バッテリー保守の仕様

JIS形式	電圧 (V)	10時間率容量 (AH)	充電電流 (A)	液量約 (ℓ)	注液及充電末期電解液比重 (20℃)	
					温暖地	熱帯地
6N 2AH	6	2	0.2	0.1	1.26	1.24
6N 4AH	6	4	0.4	0.2	1.26	1.24
6N5.5AH	6	5.5	0.55	0.25	1.26	1.24
6N 6AH	6	6	0.6	0.25	1.26	1.24
12N 5AH	12	5	0.5	0.45	1.28	1.24
12N5.5AH	12	5.5	0.55	0.4	1.28	1.24
12N 7AH	12	7	0.7	0.5	1.28	1.24
12N 9AH	12	9	0.9	0.55	1.28	1.24
12N 10AH	12	10	1.0	0.75	1.28	1.24

バッテリーの型式表示は電圧数値、日本製のN、10時間率容量の数値とアンペア、アワー。このあとハイフンにつづく数字と英字は端子の位置と排気孔の位置を表わす

決め手はクッション。
みんなに好かれるヤマハです。



CUSHIONBIKE*20

クッションバイク*20

カラー：オレンジ/グリーン
オプションパーツ：フロントバスケット/フロントフラップ/リアフラップ
●デコボコ道でもラクに走れる前後のクッション。乗り心地は最高、とくになめらかです。フロント：テレスコピック式コイルスプリング。リア：スイングアーム式コイルスプリング。
●路面をしっかりとらえる4.4センチの太いタイヤ。
●制動力、耐久性ばつぐんのドラムブレーキ。
●5才〜9才ぐらいのお子さまの身長に合わせて、自由に調整できる長いセミバ



ナナ型サドル。
●安全のための頑丈なチェーンケース。
●丈夫なブリッジ付ハンドル。
●走りがいっそうたのしくなるラップ式ホーン。
●小物が入るカッコいいバッグ。
●市販の補助輪も、簡単に取り付けられます。
標準現金価格：¥29,800



MOTO-BIKE

ヤマハモトバイク

カラー●MB1：イエロー
MB2：ライトグリーン
オプションパーツ：フロントバスケット/リアキャリア/リアフラップ。
●頑丈。オートパイタイプのクレードル



型フレーム。
●悪路、段差もラクに乗り切る前後のクッション。フロント：ストローク65mmのセリアーニタイプ。リア：スイングアーム式コイルスプリング。
●力強く大地をキヤッチ。5.4センチの太いタイヤ。
●水に濡れても強力な制動力を発揮するドラムブレーキ。耐久性も抜群。
●長いバナナ型サドル。高さ710mmから800mmまで5段階に調整可能。的確なライディングポジションを確保。
●ハンドルは、MB1：オフロードタイプでブリッジ付き。MB2：普通の道からデコボコ道までラクな姿勢で走れるアップハンドル。
標準現金価格：¥46,800



cushion mini

クッションミニ24

カラー：パールホワイト/ライトグリーン
●どんな道でもなめらかに走れるクッション付きセンターサスペンション。自転車では初めて。
●小柄な方から背の高い方まで、ラクな姿勢で乗れるフレーム設計。
●安全のための大切なブレーキは、後輪に強力な内括式を採用。
●軽く走れるしなやかなアメサイドタイヤ。
●お好きな服装で、安心して乗れるフル

チェーンケースと、後輪のドレスガード。
●夜間も安心して走れる12極6V3Wの明るいライト。
●フロントにはバスケット、リアにはキャリア。毎日のお買物に、とっても便利。
標準現金価格：¥39,800

